

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300092		
法人名	社会福祉法人ほのほの会		
事業所名	あかねの里 認知症対応型共同生活介護事業所(希)		
所在地	島根県出雲市平田町7169		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町村受理日	平成24年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成24年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自宅のような雰囲気の中で日常をゆったり過ごすことで、心身の安定を図り職員・利用者が共に安心して生活しています。又ご家族とのコミュニケーションを大切に日々努力を行っています。 ・自分のできる範囲で、身の回りや家事をすることで自立した生活を維持・回復するとともに、生活意欲が向上するようなケアを行います。 ・季節ごとに収穫した野菜を用い、利用者の好みや希望を献立に取り入れ、温かい手作り料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>スーパーや温泉施設、飲食店など新興の建物や学校、体育館などが立ち並ぶ中に、通所介護と2ユニットのグループホームが、水切りの床張りの中庭を囲むように併設されている。それぞれのグループホームやデイサービスは、自由に行き来でき、生活の物音や話し声、時には歌声などが反響し、ホームの目指す、自宅のような親しみと安心できるぬくもりが感じられる。職員は、利用者に対して家族のように暖かく接しており、利用者の役割も引き出している。近隣や知人が毎日のように訪れ、野菜や花などを差し入れしたり、ともに食事をするなど、ゆつくりと関わり、ホームににぎわいをもたらしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に職員が協力し、安心して地域で生活できるよう支援している	家庭での生活が難しくなったお年寄りが、家庭的な雰囲気の中で介護職員とともに暮らすという理念の下、職員の異動もなく、日々、利用者の声を聞き、その思いを実現できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や田舎流デイサービスに参加し、交流を続けている	本年4月に移転後も、以前からの地域とのつきあいは継続されている。老人会や女性ボランティア、大正琴、フラダンスなどの慰問を受けたり、地域サロンに出かけていくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティセンターの介護教室に参加し、認知症理解に協力している。職員は認知症サポーター要請講座など積極的に受講している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括支援センター、町内など地域の方々の参加をいただき、助言をサービスに活かしている	会議には、利用者家族や地域住民なども参加し2ヶ月毎に様々な事柄について話し合い、よい意見などを取り入れて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判らないことは常に相談し、助言をいただいている	市職員からは、福祉やサービスの制度に関する助言を受け運営に活かしている。また、ホームからも、利用者の日常の様子や、問題などについても報告相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実行委員を決め、研修に参加したり、都度話し合っている	テーブルに着くときに、肘掛けの椅子は身体拘束か、安全かなど、ケアの内容が適切か否かについて、話し合うことで、それぞれの職員が振り返ることで、身体拘束のない生活の援助に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士常に話し合い、注意しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して意義を理解するよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前実態調査を行い、担当職員が説明を行い、事前に事業所内の見学をしていただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、総会や懇親会行事等に参加いただき、意見を聞き取り、運営推進会議等に図り反映させている	本年4月に移転するに当たり、家族会を開くことで、引っ越しやグループホームの形態の変化や職員のチーム編成などで、利用者や家族の不安が解消できるよう話し合い、協力も得られ、スムーズに運営が継続された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、処遇会議で話し合うだけでなく、都度意見があればその場で話し合い上司に相談している	職員は日々さまざまなケアのあり方について、考えたことを上司に話すことが出来る。月ごとの職員会議だけでなく、それらの意見を日々ミーティングで話し合い、実行に移している。利用者がしたいという炊事や洗濯等の家事もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会等に参加、自らが向上心を持てるようにしてもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等に参加、資格取得できるよう配慮してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じ関係づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査報告時、しっかり情報を共有することで、信頼関係が築けるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査報告時、しっかり情報を共有することで、信頼関係が築けるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人のチェックノートを作り、細かく対応、支援の見極めをするよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴する時間を多く持つようにし、互いに協力し、生活していることを話し、関係づくりに努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を行い、一緒の気持ちになって支援するような関係を構築している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、地元へドライブに出て、話をする機会を設けたりしている	利用者も、職員も地元出身がほとんどであることから、馴染みの関係が作りやすく、利用者の思いも把握しやすい。日常的に、馴染んでいた趣味や知人とのふれあいなどが途絶えることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、より良い関係づくりができるよう努めている。助け合って行ける様な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で顔を合わせてもきちんと挨拶し、状況を聞いたり、継続的な関係づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意見があったらすぐ話し合い、家族の意向も聞きながら検討している	利用者は思いや意向を話しやすい雰囲気があり、それらを職員がすぐにくみ取ることで、外出やホームでの役割実行など日々の暮らしを、お客ではない、家族の一員として生きる姿が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査やケアマネージャーからの情報を収集、また入居後も家族から話を聞きながら経過把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できないと決めつけず少しずつから試してみ、できることできないことを見極めるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りを処遇会議で話し合い計画している。職員によって対応が違うことがない様申し合わせている。	利用者や家族から引き出された思いや、希望を職員全員で検討し、個別に作られた介護計画は、毎日のように評価され、必要に応じて改善、変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを記録に残すようにし情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に沿って外出支援等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や外部からの情報を収集し、参加したり来所してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切に適切な医療が受けられるよう相談したり良い関係作りに努力している	複数の医療機関との連携を行い、往診や受診など利用者にとって、信頼できる医師との関わりが継続できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	きちんと状況報告を看護師に行い、医師への相談・指示を仰げるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換をし、面会に行き看護師や介護職員さんとの関係作りをし情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に合わせてその都度話し合いをし、十分に説明し取り組んでいる	重度化や終末に向けたケアについては本人、家族、医師など関係者等が必要に応じて話し合い前向きに取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	救命救急法を学んだりマニュアルに添って定期的に話し合いを行い、いつでも実践できるように身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の方の協力のもとで避難訓練を実施、定期的に職員間でも避難経路について話し合いをしている。又地元消防団に車椅子操作や移乗の技術指導も行っている	避難訓練には、地域の住民が約20名ぐらい協力し、手助けするだけでなく、自分たちにとっても勉強になると言う。地元消防分団も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持って接するようにしている。居室へ入室する際にはノックしたり、声を掛けたりしてから入るようにしている	家族的と言ってももちろんプライバシーや一人での時間や個室で過ごすことも大切にし、見守るようにしている。掛ける言葉も丁寧に、親しみを込めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自己決定できるような声掛けをし、自信を持って生活していただけるようにしている(買い物・外出など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の日常の生活を大切に、体調に配慮しながら出来るだけ希望に添った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみが整えられる方には見守りをし、出来ない方にはさりげない助言をしたり援助している。2ヶ月に1回散髪を利用している方もおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に盛り付けから片付けまで行っている。又職員は弁当持参だが、汁は一緒に作り、月に4~5回は同じ食事を共に楽しくいただいている	ホームで採れた野菜や、差し入れの素材を利用者は下ごしらえしたり、献立を考えたりしている。利用者の体調や好みに合わせた味付けや調理法で、皆が食事を楽めるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、嗜好によって食べにくいものなど形を変えたりして出来るだけ満遍なく食べられるよう工夫をし水分摂取量も把握している。基礎疾患のある方には医師と相談しながら配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし実施、異常を発見した場合は、早期に歯科受診ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しさりげない声掛けで対応している	周りにそれと悟られないような声かけで、失禁をしないように排泄を促している。重度の方には、そわそわしたり、不機嫌になるなど、行動を観察するなかで、排泄のサインを見つけ、自立への援助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使用しないよう、運動や、水分量の目安を決め、食事についても繊維食品を多く取れるよう汁物などで工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて実施しているが、できるだけ希望に添えるよう支援している。又夜希望されるときは、他ユニット職員の協力を得て行う事もあるが、できないときはきちんと説明し了解を得、清拭で終わることもある	温泉の掛け流しという、地の利を最大限活かすとともに、入浴が、利用者にとってはくつろぎやリラックスできる気持ちの良いものであるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠は個々に違うので眠れないときはお茶を飲んだり話を聴いたりと安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に一人ひとりの薬の用法・用量を理解したうえできちんと飲まれるまで確認するようにしている。又誤薬防止マニュアルに添って確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯、野菜切り等利用者の出来ることを引き出し、役割を持っていただき、生活の張り合いを見つけられるよう、また楽しく生活していただけるよう一緒に考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩しながら寄り道をしたり、外食も希望に添って出かけられるよう話し合い、計画を立て実施、今年は映画鑑賞にも出かけた	戸は開け放たれており、利用者はいつでも外へ出かけることが出来る。一人で出かけられない方も、行きたいところしたいことを聞き出して、ともに出かけていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は所持しておられないが、必要な時には立替をするなどし、いつでも使えるよう家族と連絡を取り合っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があればきちんとやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合った花を飾ったり、食堂にも家庭的なものを置いている。又混乱をまねかぬよう、表札や印をつけている	事業所はホールも廊下も広く、天井も高い。中庭は吹き抜け天井になっており、明るく、風通しがよい。ソファや椅子などがそこかしこに置かれ、利用者は好きなどころでくつろぐことができる。活動の写真や季節の生花が彩りを添える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごせるよう食堂も開放している。他者の居室でお互いが談話されることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し自宅で使い慣れた家具等を使用しておられる。そして家での生活と差がないようにしている	利用者は、自分なりにしつらえられた自室に愛着を感じ、自室での時間を大切に過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等に目印や表札をつけたりし、好きなどころへ行けるよう配慮している、		